

X線技術を もつと社会に――



FLEX-M863

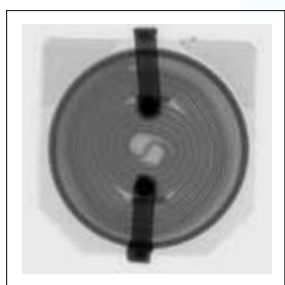
株式会社ビームセンス

画期的なX線透視装置

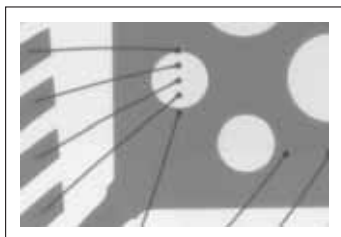
「X線を使った技術はこれからの社会にもつと必要とされる。ならば私も自ら培ってきた技術を世の中に出していくべきだと思いました」。数年前に大手電機メーカーを退職し、ビームセンスを立ち上げた馬場末喜社長は、起業に至った動機をそう話す。メーカー勤務時代は30年以上にわたり、放射線計測分野の研究開発に携わってきた。

電子部品等の基板や小型電子モーターをはじめ、はんだ付け部分の状態観察や金線の断線・曲がり等、出荷前に極小箇所を最終検査しなければならぬ工業部品は数多い。その95%程度は目視確認でも大丈夫というが、残り5%はX線等を利用した機械による確認が必要だ。

しかし、「X線は『怖い』というイメージを持たれがちでした。実際、従来のX線装置も大きく威圧感を与えるものが多かった。そんな現状を変えたかったのです」。



電解コンデンサー撮影画像



QFPワイヤボンド撮影画像

より扱いやすく精度の高いX線透視装置を作りたい――。強い決意のもと、経験を下地に試行錯誤を重ねながら、「小型・簡単・よく見える」をコンセプトに開発にこぎつけたのが、マイクロフォーカスX線透視装置「FLEX-M863」だ。

大型機並の2μmの分解能

この装置、W800×D645×H535mmという卓上サイズのため、工場ラインのそばに容易に設置できることがひとつの売り。しかし最大の特長は、外観をガラス張りにして装置内部を可視化したこと。測定物を見たい方向から見ることができ、検査作業を容易にした。測定中に傾斜をもたせることもでき、測定物の高さ情報まで得られる。「この装置を利用された企業の製品精度は確実に上がります」。馬場社長はそう断言する。

測定物を透視した画像はパソコン画面上で確認するが、150万画素平面撮像CCDセンサーにより、幾何倍率10倍時で大型機並の2μmの分解能を実現する。もちろん画像保存機能も備えており、トレーサビリティも簡単だ。

「近年のパソコンの急速な機能向上に伴い、画像処理技術が飛躍的に進歩していることも追い風になった」と馬場社長は話す。

「見た目にもこだわった」という外觀デザインは、世界的に有名なゲーミングマシンのデザインを担当したデザイナーに依頼した。

技術は使うことで活きる

装置が小型であることの利点を活かし、車に積み込み、一年間で国内をのべ1万2000km以上移動して現場での実演に注力。結果、引き合いは確実に増えた。より利用してもらいやすいようにと、最近では装置のリースも始めている。

「技術は使われないと途絶えます。だからまず、現場の人に敬遠されないものをつくるのが大切。技術は使うことで活きるのですから」。馬場社長の強い思いが、この装置に宿る。

主な事業内容

X線透視装置・X線撮像センサーの研究、開発、製造、販売等



馬場末喜さん
代表取締役社長

大阪
19

株式会社ビームセンス

Company
Profile

住所 / 〒564-0041
大阪府吹田市泉町2-19-16
創業 / 平成16年10月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 2名 (平成21年1月現在)
TEL / 06-6384-9563
FAX / 06-6384-9563

<http://www.beamsense.co.jp/>